

科目名	建築構造力学Ⅱ	英語科目名	Mechanics of Building Structures II
開講年度・学期	平成22年度 通年	対象学科・専攻・学年	建築学科・3年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	履修単位(30時間単位)
担当教員	高橋純一	居室(もしくは所属)	建築棟3階
電話	0285-20-2831	E-mail	taka.jun@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標			
1. 応力度およびひずみ度とこれらの関係である弾性法則を理解する。 2. 部材に生ずる応力と応力度の関係を理解し、応力度の計算ができること。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標1～2：試験において60%以上の成績で評価する。提出レポートの内容を設定水準で評価する。			
評価方法			
評価は下記2項目の加重平均により行う。 1. 中間試験2回、期末試験2回形4回の試験の加重平均(90%) 2. 課題の解答内容(10%)			
授業内容			
<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応力度とひずみ度および弾性(3週) 2. 物体内の応力度間の関係(3週) 3. 温度応力、摩擦力(1週) 4. (中間試験) 5. 梁における応力度(3週) 6. 断面の性質(3週) (期末試験) 7. 前期総復習 <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 構造材料の性質(1週) 9. 許容応力度(2週) 10. トラスの設計(1週) 11. 梁の設計(1週) 12. 柱の設計(1週) 13. (中間試験) 14. 梁の変形(2週) 15. 固定はり(2週) 16. 連続はり(1週) 17. 不静定ラーメン解法の基礎(2週) (期末試験) 18. 目標達成確認、総復習 			
キーワード	応力度、ひずみ度、主応力、梁、柱、断面の性質、許容応力度、たわみ、たわみ角		
教科書	武藤清他「大学課程 建築構造力学」、オーム社(1989)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 元結、大塚「建築構造力学」、市ヶ谷出版(2009) 2. 坂田、島崎「建築構造力学Ⅰ」、学芸出版(2003) 3. 寺本「建築構造力学Ⅰ」、森北出版(2005) 4. 谷資信他「建築構造力学Ⅰ、Ⅱ」、オーム社(1970) 		
小山高専の教育方針①～⑥との対応	③ ④		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-2) 基礎知識を専門工学分野の問題に応用して解くことができること。 (B-2) 数学の知識と、数学と工学をつなぐ基礎的知識を身につけること。			
JABEE 基準1の(1)との関係	(c) (d)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	建築構造力学Ⅰ、建築構造力学演習		
現学年の関連科目	応用物理、建築材料		
次年度以降の関連科目	建築構造力学Ⅲ、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、木構造、建築構造計画、建築耐震構造、建築法規、建築応用力学、卒業研究(構造系)		
連絡事項			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時間中に講義内容を理解する。わからないときは可能な限りその場で質問すること。 2. 授業の復習は大切であり、演習問題は必ず自分で解くこと。 			
シラバス作成年月日	平成22年2月26日		